

研究スタッフ

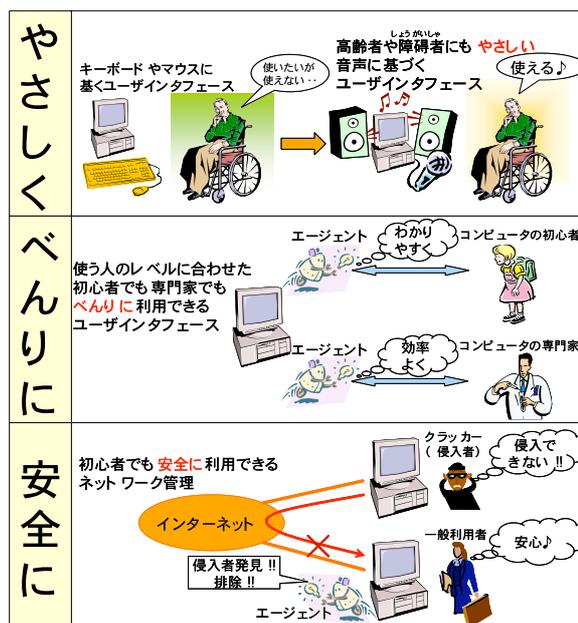
教授：鈴木 陽一(兼) 教授：外山 芳人(兼)

教授：木下 哲男(兼) 准教授：北形 元

助教：笹井 一人 PD研究員：長田 俊明

研究目的

現在のコンピュータに代表される情報システムは、前もって決められた使い方
で固定的な処理や機能のみを提供する
“かたい情報システム”である。本研究
の目的はこれまでの“かたい情報システム”
を超え、人間の意図や環境に柔軟に
適応した情報処理を行う “**やさしい
情報システム**”の構成論を確立し、全ての
利用者が「**やさしく・べんりに・安全に**」
利用する事が出来る情報処理環境を
実現することである。

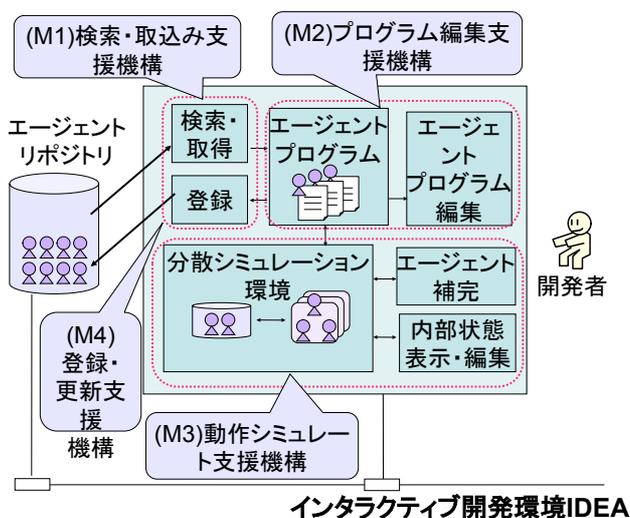


主な研究テーマ

1. エージェントシステムの開発方法論とその支援環境

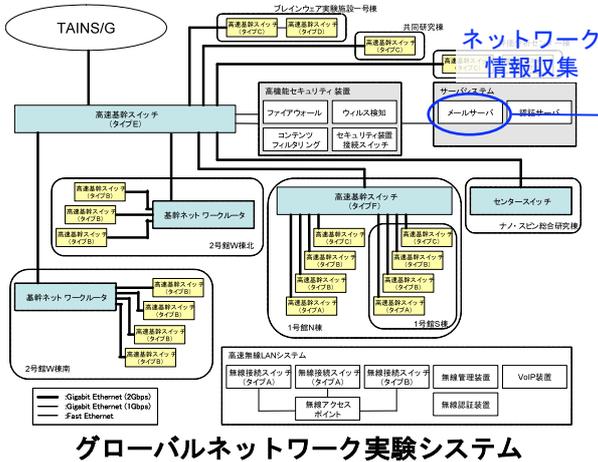
近年、自律性や社会性を備えたエージェントシステムの実現に関わる研究開発が進められているが、状況依存的・非決定的に振舞うエージェントシステムを系統的に開発するための方法論や、それに基づく開発環境などは十分に整備されていない。

本研究では、システムと開発者の相互補完的な協調、及び、既存資産のエージェントシステムの効果的な再利用を促進するための開発方法論及び、それに基づく開発環境を提案し、**エージェントシステム開発の効果的な支援**を目指す。

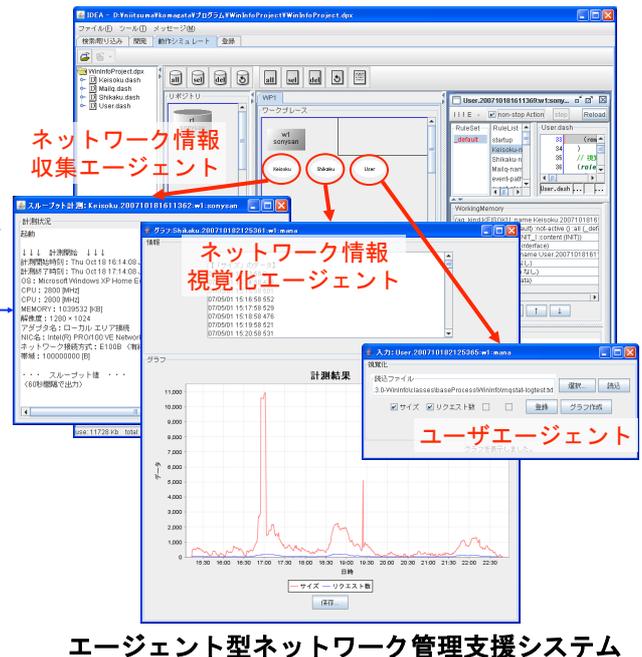


2. 安全・安心を実現する知的なネットワーク管理支援システム

ネットワーク管理者は、障害発生時にその原因を特定し解消するために「情報収集整理・対策方法の選定・対策の実行」という作業を行わなければならない。安全・安心な情報ネットワークを実現するためには、これらの作業をできるかぎり迅速かつ正確に行うことが期待される。しかしながら、近年のグローバル化されたネットワークでは、これらの作業には多大な経験と労力が必要であり、ネットワーク管理業務において重大な問題点になっている。



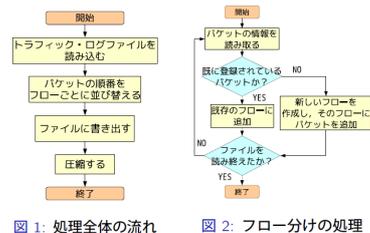
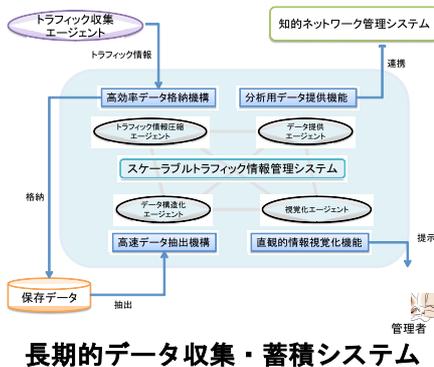
本研究では、この問題を解決するために、管理業務に必要な情報や知識を能動的に活動させ連携・協調させることにより、管理者にかかる作業労力の負担を軽減し迅速かつ正確な障害への対処を可能とする、エージェント型のネットワーク管理支援システムを開発している。



3. ネットワークの長期的なデータ収集・蓄積システム

ネットワークの特徴を分析するためには、長期間のトラフィック観測データが必要となるが、近年の高速化に伴うデータサイズの増加が、新たな課題となっている。

本センターでは、このような問題を解決し、他の知的ネットワーク管理システムと連携可能な、長期的データ収集・蓄積システムを開発している。これにより、ネットワーク管理におけるトラフィック解析のコスト・負担軽減を目指す。



トラフィックに適した情報格納手法